

地すべり北海道 40

～北海道地すべり学会ニュース～

目 次

[Hols News]

(公社)日本地すべり学会 第60回研究発表会および現地見学会の開催報告 / 石丸委員長

各部会活動報告

総務部会 / 輿水 健一

式典研究発表部会 / 佐々木 隆

道民講演会部会 / 本間 宏樹

展示部会 / 青木 淳

現地見学会部会 / 山田 結城

オンライン部会 / 渡邊 達也

[総会報告]

令和3年度総会、特別講演会の報告 / 事業部

[委員会活動報告]

技術委員会・研究調査委員会・企画委員会 / 各委員会

[その他活動報告]

シニア会

[事務局より]

学会の動向と記録

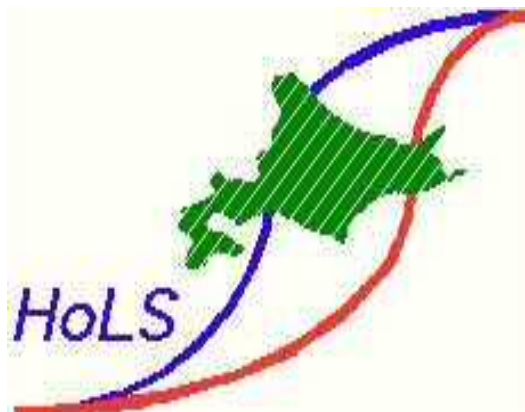
[お知らせ]

[賛助会員名簿]

[学会役員幹事運営委員名簿]

[編集後記]

2022年3月



(公社)日本地すべり学会第 60 回研究発表会および現地見学会の開催報告

実行委員長 北海道立総合研究機構 石丸 聡

1. はじめに

(公社)日本地すべり学会第 60 回研究発表会および現地見学会が、2021 年 9 月 15 日(水)～16 日(木)を中心に、札幌市教育文化会館を拠点にオンラインを活用して開催されました。前年に甲府市で開催が予定されていた第 59 回大会は、コロナ禍により現地開催を断念し、講演集の発行のみの大会となりました。第 60 回の札幌大会も引き続きコロナ禍ではありましたが、大会実行委員会や本部事業計画部関係者の創意工夫と努力により、オンラインを主体としながらも、研究発表会と現地見学会を無事開催することができました。また、通常であれば研究発表会前日に実施する道民講演会も、事前録画による YouTube を利用して 9 月 12 日(日)から 9 月 20 日(祝)にかけて配信しました。

大会が対面開催ではないため、参加者が少なくなるのではないかと春時点では心配もしましたが、最終的には発表件数 95 件、研究発表会・現地見学会の参加者数 408 名となり、ほぼ通常大会と同等の規模になりました。また、道民講演会「アイヌと大地と自然災害」については、道外も含め、札幌以外の地域からも視聴可能となり、2 講演合計で 1132 名もの皆さまにご覧いただきました。

それぞれのイベントの詳細については、各部会から報告があると思いますので、ここではオンライン開催に至るまでの経緯とその取り組みについて報告します。

2. オンラインを前提とした大会準備と経緯

研究発表会の前回の札幌開催は 2012 年で、今大会はそれから 9 年を経た開催となりました。この間、支部の運営委員は少しずつ入れ替わり、当時の準備状況を良く知るメンバーがかなり少なくなっていました。大会実行委員会幹事は支部運営委員を中核として構成するため(右表)、大会事務局を担当した総務部会を含め、多くの部会が大会開催までの段取りもわからないまま、手探り状態で大会の準備を進めていただいたのではないかと思います。

それ以上に大会準備の障壁となったのは、やはり新型コロナウイルスでした。大会時の感染状況が見通せないため、開催方式さえ決定できない状況が大会の半年前まで続きました。大会前年の夏の段階では、1 年後であればワクチンも出回りコロナ禍は終息に向かうだろうという希望的観測もあって、基本的に対面方式を前提として準備を進めることにしていました。しかし、第 1 回の実行委員会を開催した 12 月頃には、いわゆる第 3 波の感

実行委員会

職名	氏名	所属
委員長	石丸 聡	北海道立総合研究機構
副委員長	佐藤 剛	帝京平成大学 環境情報学研究所
	石川 達也	北海道大学 大学院 工学研究科
	笠井 美青	北海道大学 大学院 農学研究科
委員	貴家 尚哉	北海道開発局 建設部 河川工事課
	山本 恵太	北海道開発局 農業水産部 農業設計課
	櫻庭 英明	北海道森林管理局 計画保全部 治山課
	松田 哲夫	北海道 建設部 土木局 河川砂防課
	土岐 倫功	北海道 水産林務部 林務局 治山課
	五十嵐 尚	北海道 農政部 農村振興局 農村整備課
	千葉 新次	(社)北海道地質調査業協会
監事	小野 由紀光	(社)斜面防災対策技術協会 北海道支部
	宇次原 雅之	日特建設(株)
	雨宮 和夫	防災地質工業(株)
	横田 寛	(公社)日本地すべり学会 北海道支部

幹事会

職名	氏名	所属
幹事長	石丸 聡	北海道立総合研究機構
副幹事長	茂木 俊	国土防災技術(株)
	石川 達也	北海道大学 大学院 工学研究科
	田近 淳	(株)ドーコン
	伊東 佳彦	北電総合設計(株)
	磯貝 晃一	(株)開発調査研究所
幹事	渡邊 司	ホクボウコンサルティング
	久保 徳彦	北海道開発局 建設部 河川工事課
	堀田 拓也	北海道開発局 建設部 道路建設課
	藤元 栄一	北海道開発局 農業水産部 農業設計課
	西川 勲	北海道森林管理局 治山課
	大沢 茂	北海道 建設部 土木局 河川砂防課
	渡邊 哲也	北海道 水産林務部 林務局 治山課
小林 義宗	北海道 農政部 農村振興局 農村整備課	
総務部会幹事	奥水 健一	北海道立総合研究機構
	足立 辰也	国土防災技術北海道(株)
	溝上 雅宏	明治コンサルタント(株)
	岩間 倫秀	日本工営(株) 札幌支店
	清水 順二	(株)ジオブラ
式典・研究発表会部会幹事	柴田 純	(株)シビテック
	佐々木 隆	上山試錐工業(株)
	佐々木 悟	サンコーコンサルタント(株) 札幌支店
	日下田 亮	川崎地質(株) 北海道支店
	渡辺 一樹	(株)ダイヤコンサルタント北海道支社
道民講演会部会幹事	佐々木 裕一	北海道三祐(株)
	本間 宏樹	応用地質(株)北海道事務所
	永井 啓資	大地コンサルタント(株)
展示部会幹事	中鶴 真也	北海道土木設計(株)
	青木 淳	(株)構研エンジニアリング
	紙本 和尚	(株)シン技術コンサル
現地見学会部会幹事	向久保 晶	基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社
	山田 結城	(株)ドーコン
	石田 博英	防災地質工業(株)
	伊藤 和伯	(株)開発調査研究所
	倉橋 稔幸	(国研)土木研究所 寒地土木研究所
オンライン部会幹事	笠井 美青	北海道大学 大学院 農学研究科
	渡邊 達也	北見工業大学 地球環境工学科
	土志田 正二	消防庁消防研究センター
	銭谷 竜一	(株)地圏総合コンサルタント札幌支店
	宿田 浩司	和光技研(株)

染拡大が進行し、オンライン開催を検討せざるを得ない状況になりました。この時期、学会本部では6月のシンポジウムをオンライン開催にすることが決まっていたことから、9月の大会がオンラインになった場合の運営形式についても主として本部の事業計画部で検討いただくことになりました。一方、北海道支部では、前年春から延期となっていた支部研究発表会を1月にオンラインで実施しました。これが9月の大会の予行練習にもなり、規模こそ違えオンライン開催ができそうだという手応えを得ることができたのではないかと考えています。

この時期、本部事業計画部のオンラインシステムの検討では、他学会のポスター展示に LINC Biz というシステムがよく使われていることを知り、関係者で試用したところ使いやすく、質疑では音声のやりとりができることがわかり、これを採用することにしました。そのような検討結果を踏まえ、3月の地すべり学会理事会において開催方式をオンラインに変更することを報告し、承認いただきました。大会は全行事をオンライン開催とするものの、現地見学会や特別講演、道民講演会などで北海道らしさを最大限演出しようということになりました。

3. オンライン開催に向けての挑戦

オンライン開催となったために、これまでの大会で必要のなかったことに対しても数多くの検討が必要になりました。そもそも開催システムの決定がなかなかできなかったことから、総務部会の予算組みは度々の修正を強いられ苦労されたと思います。さらに、予約していた札幌教育文化会館をオンライン開催ではどのような形で使用すべきか。部屋のキャンセルをどのように行うべきか。企業展示については、オンライン上でどのような展示方法が可能か。ポスター発表はどのように展示・質疑を行うのか。表彰式も含めた式典をどのように進めるか。オンライン道民講演会はどのように収録し公開できるのか。



大会実行委員長からの大会の開会挨拶

参加者が現地に足を運ぶことのできない現地見学会をどのように構成するか。口頭発表の運営は外注にしたが、どのように連携・補助すべきか。これらに対し、各部会がどのような対処をされたかは、次頁以降、それぞれから報告があると思いますので割愛しますが、大会後、大会参加者や本部関係者から聞いた声は、難しい運営を強いられた大会にも関わらず大きなトラブルもなく、また今後も必要になるであろうオンライン大会の基礎部分を築いたことを評価するものが数多く聞かれました。

4. おわりに

コロナ禍で先行きの見通せない大会を無事に開催することができたのは、ひとえに実行委員会・幹事会ならびに本部事業計画部の皆さまの協力の結果と考えています。末筆となりましたが、本大会の開催にあたり、協賛いただきました北海道地質調査業協会、斜面防災対策技術協会北海道支部、後援いただきました北海道開発局、北海道森林管理局、北海道の関係者に心より感謝申し上げます。そして何より、本大会に発表・展示いただいた皆様、ご参加いただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。



大会会場の後片付けを終えたスタッフの記念撮影

[各部会活動報告]

総務部会 報告

北海道立総合研究機構 奥水 健一

1. はじめに

2021年9月15日～16日に日本地すべり学会第60回研究発表会および現地見学会がオンラインにて開催されました。2020年1月頃に謎のウィルス(コロナウイルス)が中国で流行しているというニュースが流れ、その後2ヶ月もしないうちに、日本のみならず、世界各地で急速に感染が広まりました。これにより、死者はもちろん、社会経済も影響を受けました。研究者同士の交流を図る研究発表会も人が密集する環境を避ける工夫が必要になりました。まさにコロナウイルスの影響により、研究発表会が従来の会場型から新たな様式(オンラインを導入した開催)を模索する時となりました。

ここでは、コロナウイルスが広まってから、オンラインを導入した開催に至るまでの経緯(準備・計画)を振り返るとともに、オンラインを導入した研究発表会の魅力について、私が感じたことを述べたいと思います。

2. 開催準備

コロナの状況を踏まえながら、開催までの期間にあった主だった出来事(図-1参照)を振り返りたいと思います。

2020年2月：全国大会の開催検討スタート

2020年2月の幹事会で全国大会の準備の話し合いを初めて行いました。この時、コロナウイルスが徐々に広まりつつありましたが、現地開催を念頭に準備・計画が進みました。なお、この時点では、甲府大会も開催の見込みでした。

2020年4月：コロナが蔓延、体制・役割分担の決定

この時期にいわゆるパンデミックになり、不要不急の外出や対面での人との交流を控えるような状況(緊急事態宣言の発令など)になりました。この時はパンデミックが長期化するとは思わず、全国大会の幹事体制・役割分担を決めました。

2020年8月：開催に向けた不安

2020年6月に甲府大会の中止が決まりました。8月には事務局メンバーおよび前回大会の事務局長(渡邊 司氏)が集まり、札幌大会をどのように運営するか真剣に考えるようになりました。この時点で、会場、日程が決まっていないなど、不安要素がいっぱいでした。

2020年11月：開催に向けた具体的な内容の検討

大会を運営する実行委員会発足に向け準備委員会を立ち上げ、本部事業計画部とともに、全国大会の開催方法と今後の計画について、話し合いを行いました。この会

議の時点では、感染対策を取りながら懇親会を行うことを模索していました。また、現地見学会もバスによる三密が懸念されましたが、感染対策を取りながら、実施することを模索していました。

2020年12月：第1回実行委員会の開催

第1回実行委員会は、全国大会の開催内容を設定し、その内容を実行委員に承認いただく場になります。しかしながら、この時点でコロナウイルスがなかなか終息せず、「現地開催」を前提として準備を進めつつも、「オンライン開催」の可能性も考慮せざるを得ない状況でした。本来だと、この実行委員会を機に、大会まで計画通りに進めていく形になりますが、今回ははっきり先が見通せないまま実行委員会を終える形になりました。

2021年3月：オンライン開催への変更決定

開催まであと半年となりましたが、コロナウイルスの感染者が減少し続けることはなく、感染者が減っては増えるという波を繰り返していました。このような状況のためコロナ禍の終息が見込めず、参加者の安全を第一に考え、オンライン開催に踏み切りました。

2021年5月：砂防学会からの支援

オンライン開催への変更に伴い、口頭・ポスター発表、現地見学会などは、従来の開催様式からオンラインによる新たな開催様式を模索する形になりました。そんな中、砂防学会がオンラインによる研究発表会を開催し、私も参加しました。この参加によって、オンラインによる研究発表会の運営方法をイメージすることができました。後に、運営に関する資料を砂防学会関係者から提供いただきました。これにより、地すべり学会幹事も具体的な開催計画を構築することができました。

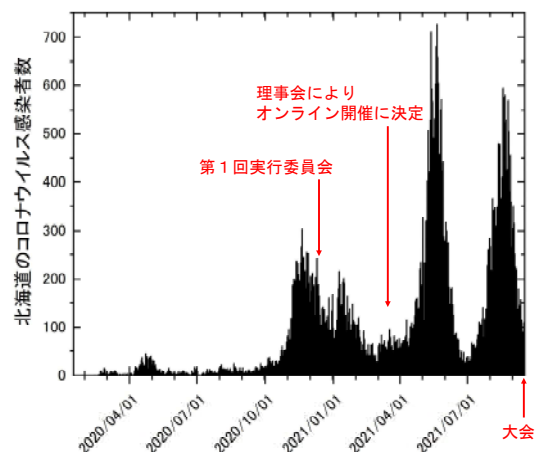


図-1 北海道のコロナウイルス感染者推移
(感染者確認から研究発表会開催までの期間)

2021年8月：大会までラストスパート

開催1か月前は正直、様々なことがありすぎて、一言では言い表せません。ただ、一つ言えるのは、幹事の皆さんがお互い協力し合い、準備が少し遅れ気味の部署のフォローに回るなど、チームワークで大会準備を乗り切ったことが印象的でした。特に、開催まで1週間を切った頃には、運営体制に不足がないか、当日の行動表などを作成し、幹事の皆さんと連携を密に取りました。また、研究発表会の参加呼びかけも積極的に行いました。その結果、申込者数が400名以上と、幹事の予想を上回る申し込みがありました。このことは、現地開催からオンラインを導入した大会への期待の表れのようにも感じました。



写真-1 参加者の入室確認をするスタッフ

3. オンラインを導入した研究発表会の魅力

札幌市教育文化会館を基地局として、オンラインによる学会を開催しました。学会当日は大きなトラブルもなく、むしろ称賛の声が多かったように思います。特に、従来の開催様式と異なるオンラインの口頭・ポスター発表も予想を上回る反響でした。従来の会場型の口頭発表やポスター発表では、人が多く、会場に入れない。もしくは遠くてスライドやポスターが見えないということがよくありました。しかし、オンラインではその点が改善され、画面上で細かい部分まで閲覧できるようになりました。また、チャットのみならず、口頭でのやり取りも可能なため、十分な議論ができるようになりました。これらのことがまさにオンラインを導入した研究発表会の魅力であると感じました。



写真-2 オンライン上でのポスター発表

4. おわりに

コロナウイルスが発生してから、学会開催まで様々なことがありました。先が見えない中で開催を模索することは非常に大変でした。このような状況で私が強く感じたのは「チームワーク」です。チームワークがなければ、研究発表会は決して成功しなかったと思います。また、今回の研究発表会の準備にあたっては、砂防学会関係者からの情報提供もあり、成功裏に収めることができたと思います。この場を借りて感謝申し上げます。

コロナウイルスの影響により社会が一変しました。研究発表会も新たな開催様式の時代に突入したと身をもって感じました。最近是国内の学会のみならず、国際学会もオンラインによる開催が多くなり、欧米の研究者との物理的な距離も感じなくなったのではないのでしょうか。

この先もオンラインの文化が根付いていくか、次回の北海道大会を期待したいと思います。



写真-3 オンライン上での特別講演

式典研究発表部会 報告

上山試錐工業株式会社 佐々木 隆

1. 開会式・表彰式および特別講演

令和4年9月15日（水）10時から教育文化会館の講堂を拠点として、オンライン（Zoomを使用）にて開会式・表彰式と特別講演が開催されました。

開会式・表彰式は石丸実行委員長の開会の辞、平松会長の会長挨拶に引き続き、来賓挨拶を浦本北海道副知事と農林水産省細井課長から頂きました。



写真-1 石丸実行委員長による開会の辞



写真-2 平松会長による開会式挨拶



写真-3 浦本北海道副知事による開会式来賓挨拶



写真-4 農林水産省細井課長による開会式来賓挨拶

開会式に引き続いて、10時30分から表彰式を行い、表彰者選定経過報告については八木表彰委員長から、表彰状授与は平松地すべり学会会長から行われた。

今年度の表彰者は、大会が中止となった令和2年度の受賞者も含め、論文賞を濱崎英作氏、技術報告賞（令和2年度受賞）を西井稜子氏、技術報告賞を田近淳氏および片山直樹氏（式欠席）、査読者賞（令和2年度受賞）を山崎孝成氏、査読者賞を阿部真郎氏、国際賞を王文能氏および山岸宏光氏、学会活動貢献賞を日本地すべり学会誌編集委員会の計8名、1団体が表彰されました。



写真-5 農林水産省細井課長による開会式来賓挨拶

表彰式に引き続いて、11時から特別講演を北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所の石丸実行委員長より『北海道胆振東部地震による斜面変動「地震による地すべり災害」から』の講演が実施されました。



写真-6 特別講演の様子



写真-9 研究発表会口答発表(第3会場配信の様子)

2. 研究発表会

研究発表会は令和4年9月16日(木)9時から17時まで、教育文化会館の講堂を拠点として、オンラインにて開催されました。オンラインはZoomを使用して3会場に分かれ、95件の口答発表が行われ、活発な議論が成されました。



写真-7 研究発表会口答発表(第1会場配信の様子)



写真-8 研究発表会口答発表(第2会場配信の様子)

道民講演会部会 報告

応用地質株式会社 本間 宏樹

1. はじめに

技術普及部は、令和3年度の活動として、(公社)日本地すべり学会第60回研究発表会および現地見学会において、道民講演会を企画、実施いたしました。

当初予定していた技術講習会については、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、実施を中止いたしました。

2. 道民講演会について

道民講演会の開催に際しまして、講演の配信動画を視聴していただきました皆様、そして貴重な講演をしてくださいました、株式会社あるた出版タウン情報誌『Otone』編集デスクの和田哲様、そして札幌学院大学人間科学科特任講師の大塚宜明様に心より御礼申し上げます。

今回の道民講演会は、テーマを「アイヌと大地と自然災害」とし、2部構成として実施いたしました。また、講演はWEB配信とし、YouTubeにより事前収録した動画を視聴していただく形式といたしました。動画の配信は、9月12日(日)9:00~21日(火)朝までで、閲覧数は2部合わせて1132と、これまでのような会場での講演形式と比べて多数の方に見ていただくことができました。講演のタイトル、講演者の経歴、講演の概要については以下の通りです。

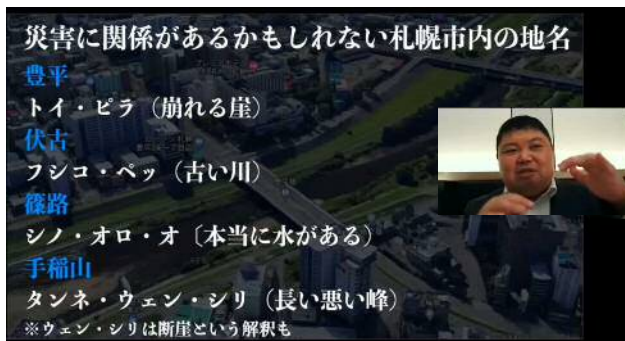
(1) 第1部 (約1時間)

・タイトル

「北の大地は語る」

・講演の概要

本講演では、自分が暮らす土地がアイヌ語でどう呼ばれていたか、そこにどんな意図が込められているのかについて、たくさん事例が紹介されました。その中には、災害にちなんだ語源をもつ地名もあり、北海道に暮らす私たちは、今一度、アイヌ語の地名について関心を持つ必要があることが述べられました。



(2) 第2部 (約1時間)

・タイトル

「北海道の先史時代における人類と自然災害」

・講演概要

本講演では、大塚氏が取り組まれている北海道置戸町の考古学の調査成果を材料に、先史時代の人々と自然災害とのポジティブな関係について紹介され、「人間による制御が難しい自然災害にどのように対処していくべきか」という重要な課題に対する新たな視点について述べられました。



3. おわりに

今回の道民講演会はYouTubeによる動画視聴形式を採用しましたが、これまで実施したことのない内容がほとんどでした。このため、準備にあたっては収録機材やリハーサルなどの事前の準備や、編集などの作業にかかる時間を見込んだ計画を立て、段取りは早めを心掛けました。しかし、PRの活動については、視聴方法の公開について学会HPとの連携方法を決定するまでに時間がかかったため、開始が遅くなってしまったことが、反省点として挙げられます。

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルスの流行下での活動となることが予想されますが、技術講習会は、オンライン形式にすることで新型コロナウイルスの感染状況に関わらず開催する計画とします。開催後にはアンケート調査を実施し、いただきましたご意見ご要望を参考にし、翌年の内容の改善を継続していきたく思います。

展示部会 報告

株式会社 構研エンジニアリング 青木 淳

1. はじめに

展示部会では、ポスターセッション、新技術紹介セッションの準備、運営を行いました。大会開催の形態が、オンライン開催となったため、ポスターセッションと新技術紹介セッションも、オンラインによる開催となりました。

オンラインによる配信は、ポータルサイト「LINC Biz」（大人数によるビデオ会議システム）を利用して実施しました。

配信方法は、各展示者にポスター・動画を事前に用意して頂き、研究発表会期間中、参加者に「LINC Biz」上で常時閲覧していただけるシステムを構築しました。各展示については、コアタイムを設定し、チャットやビデオ会議形式を用いた双方向での議論ができるシステムを構築しました。



写真-1 会場の様子

2. ポスターセッション

ポスターセッションは、9月13日（月）9:00～9月17日（金）17:00でオンライン開催され、31件の発表がありました。

コアタイムは、大会1日目の9月15日（水）13:00～15:00で開催され、チャットやビデオ会議を用いた双方向での活発な議論が交わされていました。

オンライン開催の特性を生かし、通常開催ではポスター1枚での発表となることを、複数枚の資料を用いた発表や高解像度の写真や動画を活用した発表もあり、充実した内容となりました（写真-2）。



写真-2 ポスターセッションのコアタイムの様子

3. 新技術紹介セッション

新技術紹介セッションは、9月13日（月）9:00～9月17日（金）17:00にオンラインにて展示物が公開されました。オンライン開催ということで、例年よりやや少ない11ブースの出展がありました。

オンライン開催ということで、対面でのやりとりができず、閲覧件数も少ないことから、閲覧者が少なくなるのではないかと予想されましたが、各ブースでは、オンライン開催の強みを生かし、動画を活用した広告掲載や各社のホームページへのリンク先を提示するなど、各展示者の創意工夫あふれる展示により、多くの方に閲覧して頂きました（写真-3）。



写真-3 新技術紹介セッションの掲載ページ

コアタイムは、大会1日目の9月15日(水)13:00～15:00と2日目の9月16日(木)13:00～13:45で開催されました。コアタイムは、ポスターセッションと同様に、チャットやビデオ会議を用いた双方向での活発な議論が交わされていました。

4. おわりに

オンライン開催という初の試みでしたが、各展示サイトについては、多くの参加者に閲覧していただきました(ポスターセッション:2866アクセス、新技術紹介セッション:1181アクセス)。大会期間中は、大きなトラブルもなく無事終了することができました。

運営にご尽力いただきました皆さん、また大会にご参加していただきました学会関係者の皆さまありがとうございました。

現地見学会部会 報告

株式会社ドーコン 山田 結城

1. はじめに

研究発表会および現地見学会の開催方法について、当初は9月の開催時期にはコロナ禍も終息しているだろうとの希望的観測をもって一旦は「現地」見学会での開催で案内していました。しかし、コロナ禍の終息が依然として見通せず、結果的に研究発表会に加えて現地見学会もオンラインで実施するという関係者全員が初の試みとなり試行しながらの準備・開催となりました。

2. オンライン現地見学会の概要

- ①日時：9月15日(水) 15:00～18:00
- ②テーマ：北海道胆振東部地震による厚真町内のテフラ層すべりおよび岩盤地すべり
- ③説明方法：説明動画・資料をPowerPointで整理・編集しておき、当日は説明者が解説
- ④説明内容・説明者

説明内容	氏名(敬称略)	所属
・地すべり災害の概要	山田 結城	(株)ドーコン
テフラ層すべり		
・本郷地区	前原 恒祐	(株)開発調査研究所
・桜丘・朝日地区	雨宮 和夫	防災地質工業(株)
・吉野地区	田近 淳	(株)ドーコン
・富里地区	原田 卓弘	(株)開発調査研究所
・幌内地区	土志田 正二	消防研究センター
岩盤地すべり		
・日高幌内川岩盤地すべり、シヨロマ沢	早川 智也	日本工営(株)
	戸田 英明	(株)ドーコン

3. 説明箇所の概要

3-1. 地すべり災害の概要

北海道胆振東部地震による厚真町斜面災害の概要、広範な斜面災害に大きな影響を与えたと考えられるテフラ層の分布・性状、斜面崩壊のタイプ分類について山田より説明しました。

厚真町周辺のテフラ層分布(安平町早来北進地区露頭)



図-1 テフラ層分布状況説明資料

3-2. 本郷地区

厚真町本郷地区にて発生した崩壊規模長さ約650m、最大幅約60m、最大崩壊厚さ約10m規模の緩斜面変状について前原氏より説明を頂きました。説明資料では被災前後および現在の斜面状況についてUAV撮影動画も交えながら、移動ユニットの滑动機構を示唆する特徴的な微地形が複数紹介され、移動ユニットの末端部の堆積構造から過去の地震による斜面変動プロセスについての考察も説明いただきました。



・ユニット停止時の慣性力により前転し、層序が逆転した。
・高速で移動したと考えられる。

図-2 本郷地区 特徴的な微地形の説明資料

3-3. 桜丘・朝日地区

厚真町桜丘・朝日地区で発生した斜面変状について雨宮氏から説明を頂きました。桜丘地区の斜面変状では家屋の倒壊状況から斜面崩壊の順序について説明され、崩壊直後の踏査ではすべり面がクリーム状で著しく滑りやすい状態で粘土化が進行した状態であったこと、土質試験の結果から地震動により軽石が破碎され、すべり面液状化が発生したこと等の報告がありました。最後にDEM解析では過去の崩壊痕跡箇所が抽出され、UAVで撮影した斜面状況動画にて当該箇所の説明を頂きました。



図-3 桜丘・朝日地区 すべり面性状の説明資料

3-4. 吉野地区

延長約800mに亘り斜面崩壊が発生し、多数の犠牲者が出た厚真町吉野地区のテフラ層すべりについて田近氏より説明を頂きました。吉野地区の斜面変状では発生場のタイプ分類に着目し、タイプ別に崩壊状況、すべり面厚さ、すべり面性状、末端道路の変状に違いがあること

等を説明頂きました。



図-4 吉野地区 発生場斜面分類別の道路変状説明資料

3-5. 富里地区

厚真町富里地区の浄水場背後斜面で発生した幅約600m、長さ約280~400mの斜面変状について原田氏より説明を頂きました。本現場ではDEMデータを用いた斜面変動前後の地形比較結果や、地表踏査とボーリング結果から明らかになった地層構成・変状機構および現在の復旧状況等について説明頂きました。



図-5 富里地区 移動体末端部の隆起状況説明資料

3-6. 幌内地区

これまでの説明とはやや異なり、災害救助・復旧作業の支援活動として、崩壊危険性の評価、監視対象および方法の提言、降雨時の作業停止および活動再開に関わる助言等の視点で土志田氏より説明を頂きました。



図-6 幌内地区 二次崩壊危険性評価の説明資料

幌内地区の3現場の復旧作業について、現道からは視認が困難な上方斜面の状況を UAV を用いて確認し、落ち残り土塊や滞水状況等を確認し、二次崩壊の危険性について評価したこと等を説明頂きました。

3-6. 日高幌内川岩盤地すべり, ショロマ沢

日高幌内川右岸の尾根地形を呈する斜面で発生し河道閉塞を引き起こした大規模な岩盤地すべりについて、早川氏、戸田氏に説明を頂きました。

当岩盤地すべりは崩壊発生前後の鉄塔位置から約350m 移動したものと想定され、地すべり頭部には岩塔状に分離した岩体等が観察可能な状態で残存しています。また、岩盤地すべり末端部の河道閉塞箇所に対して大規模切土を行ったことにより、この規模では恐らく世界でも例がない地すべり末端部の構造を詳細に観察できた事例および現在の対策状況等について説明を頂きました。



図-7 日高幌内川岩盤地すべり 河道閉塞状況の説明資料

4. おわりに

「オンライン」現地見学会は初の試みで、移動時間を省略できたことで実際に現地に移動しての見学会では不可能な数の現場を紹介でき、また UAV 撮影映像を積極的に取り入れることで現場全体の俯瞰映像を見せることができたことは非常に有意義であったと思います。

一方、スムーズな質疑応答ができなかったことや、参加者のアンケートでは「現地からのリアルタイムの中継を期待していた」、「研究発表の延長版になっていた」等の意見も頂き、オンライン現地見学会のスタイルを確立するためには改善の余地が多分にある状態ということを確認させられました。

最後になりましたが、最新の現地状況確認、資料の編集作業等、通常の現地見学会以上に説明者にはご負担をお掛けすることになりましたが最後までご協力いただき、また、説明者以外にも多数のご協力をいただき、無事にオンライン現地見学会を開催することができました。

これらの関係者の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

オンライン部会 報告

北見工業大学 渡邊 達也

1. はじめに

第 60 回研究発表会および現地見学会は、対面方式での通常開催を想定して準備を開始したもののコロナ禍終息の見通しが立たず、(公社)日本地すべり学会主催の研究発表会では初のオンライン開催となりました。そのため、既存の各部会が担う行事・企画をオンライン会場で統括する役割を担うべく、新たにオンライン部会が立ち上げられました。

2. オンライン部会の活動

オンライン部会の活動が始まったのは、発表会開催の約 3 か月前となる 6 月中旬でした。当初は他の部会との役割分担や準備の段取りもよく分からないままでのスタートとなりましたが、関係者からのサポートもあり大会当日まで概ね順調に準備を進めることができました。

オンライン会議システムについては部会発足前の 2 月頃から検討がなされており、オンライン会場のメインサイトおよびポスター発表と企業展示には LINC Biz、口頭発表には Zoom が採用されました。LINC Biz は実行委員のほぼ全員が使用経験のないシステムでしたが、他学会での運営方法を参考にメインサイトの枠組み(写真-1)、そして参加者・発表者向けマニュアルの作成を進めました。Zoom は利用シェアの大きいオンライン会議ツールですが、座長対象の講習会、発表者向けのリハーサルを外部委託で実施し、万全を期して大会本番へ臨みました。

3. 大会当日の状況と反省点

大会当日に目立った通信トラブル等も発生せず、滞りなくオンライン開催を実施することができました。しかし、LINC Biz のポスター会場にて一部の参加者がアクセスできなかつたり、ビデオ通話のやり取りができなかつたという現象の報告がありました。ブラウザ設定などが影響したものと考えられますが、事前に入念な確認ができていなかったことが反省点として挙げられます。

参加者アンケートの集計結果を拝見すると、今回のオンライン開催には概ね満足いただけたようです。その一方で、改善意見も多くみられました。ごもっともな意見でもあるのですが、現地通常開催と同等の満足度をオンライン開催で提供するのとは中々難しいものでもあると実感しました。

4. おわりに

ここ最近の世界的な動向をみてみますと、アフターコロナへ方針転換する国々も出てきており、通常のライフ

スタイルに戻るのもそう遠くはないと思われます。次の北海道大会は通常通りの方式で開催されることを切に願います。ただ、オンライン形式のメリットも広く認知され、対面とオンラインのハイブリッド開催が一般的になっているかもしれません。その際には、今回の経験と反省点を活かし、より満足度の高い研究発表会にできればと思います。



写真-1 オンライン会場メインサイト

[総会報告]

事業部より

— 令和3年度 総会、特別講演の報告 —

上山試錐工業株式会社 佐々木 隆

1. はじめに

今年度の総会・特別講演・研究発表会は、公益社団法人日本地すべり学会北海道支部および北海道地すべり学会の共催により、例年の4月に行う計画であった。しかし、令和3年3月の時点に於けるコロナウイルス感染状況から、総会は例年どおりの4月に講堂で行う形態の開催は困難であると判断し、令和2年度総会と同様にメーリングリストによる電子メールおよびホームページ上に公開し開催した。さらに、令和3年1月22日（金）に令和2年度特別講演および研究発表会が開催されたこと、令和3年9月15日～16日に日本地すべり学会研究発表会および現地見学会（オンライン開催）の全国大会が北海道主催で開催されたことから研究発表会は中止とし、特別講演は令和4年2月15日（火）に Zoom ウェビナーを用いたオンラインにて開催しました。

2. 総会

令和3年度の総会は、新型コロナウイルス感染流行を受けて、感染拡大を防ぐ観点からの講堂で行う形態の開催は取りやめ、議案書の配信、質疑・意見の募集、質疑等への回答、議案の承認についてメーリングリストによる電子メールおよびホームページ上での公開を行い開催しました。

開催日程は以下のとおりで行いました。

- ・4月21日 議案書配信、ホームページ公開、質疑意見募集開始
- ・4月27日 質疑等募集締切
- ・5月16日 質疑等への回答開示・議案の承認投票開始
- ・5月13日 議案の承認投票締切
- ・5月14日 議案の承認投票結果の公開

投票の結果、令和元年度の活動報告・決算報告、および令和3年度の活動計画・予算案について、投票の全てが承認投票であったことから、本年度の全議案が承認されました。

3. 特別講演

特別講演は Zoom ウェビナーを用いて、令和4年2月15日（火）に開催されました。

特別講演は、土井一生助教(京都大学防災研究所 斜面

災害研究センター 地すべりダイナミック研究領域)による「微動アレイ観測による地震動特性」、王功輝教授(京都大学防災研究所 地盤災害研究部門 山地災害環境研究部門)による「振動台実験と現地観測による振動特性」の2題で行いました。また、講演後は総合討議を行い、活発な討論が行われました。

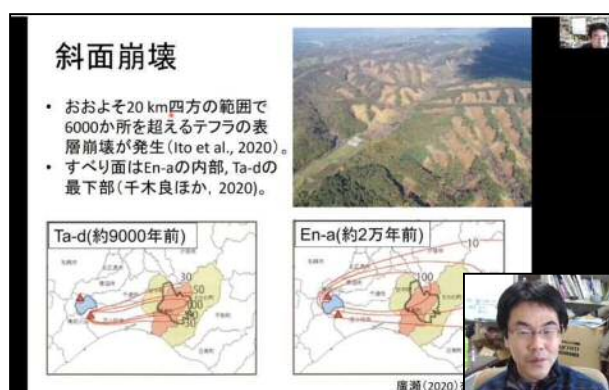


写真-1 土井一生助教の講演

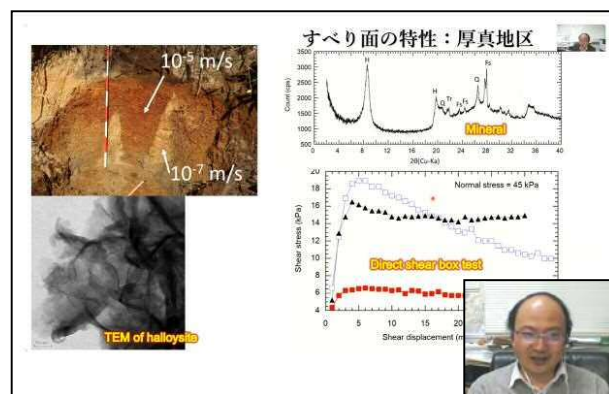


写真-2 王功輝教授の講演

開催時期が年度末であり、業務が多忙な時期ではあったが計54名の多くの方が参加し開催することができました。

4. おわりに

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、メールやオンラインにて開催しました。今後も新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンライン開催が多くなるとかやスタンダードなスタイルになることが想定されます。今後も会員の皆様に参加しやすく、時代に即した運営に務めていきたいと思っております。

[委員会活動報告]

技術委員会より —令和3年度の実施内容と今後の活動計画—

株式会社シビテック 柴田 純

1. はじめに

技術委員会は、「地すべり調査、解析、対策工の選定、施工など技術にかかわる分野を中心に討議を積み重ね、北海道の地すべり対策技術の向上に貢献する」を目的に平成4年に設立されました。

近年は20名程度の委員で構成されておりますが、そのメンバーは地すべり調査・解析、設計、施工、研究に携わるコンサルタント、ゼネコン、研究機関の方々と多岐にわたっております。

委員会は、各分野の委員が日ごろ業務や現場で遭遇した疑問点・問題点、実践した対処法などを紹介し、その技術について本音で議論しあう貴重な場であります。また、地すべりに関する諸基準や新技術などについても収集した情報等を随時発信しており、地すべり技術に関する情報収集の場となっております。

会員の皆様におかれましては、若手技術者の勉強の場として、また地すべりに従事する技術者の情報共有の場として、今後とも幅広く活用していただければ幸いですと考えております。

2. 令和3年度の実施内容

令和3年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、委員会の開催を中止しました。

令和3年度は、令和3年9月に北海道において「(公社)日本地すべり学会第60回研究発表会(北海道大会)」が開催されたことに併せて、技術委員会では、過年度より同発表会に向けて取り組んできた「第3回地すべりアンケート」に関する口頭発表を行いました。R1年度に、技術委員会所属委員および幹事会の皆様にご協力をいただいで実施しました計66箇所分の地すべりアンケートの集計結果を分析し、前回第2回アンケート(H19実施)との対比、近年の地すべり技術の傾向、地すべり業務における実務上の課題抽出などについてとりまとめました。発表の概要は以下の通りです。

〈演題〉北海道の地すべり調査・対策技術の現状と課題—アンケート結果から—

〈発表者〉技術委員会副委員長 兼 地すべりアンケート統括 北海道三祐(株) 佐々木裕一 氏

3. 今後の活動計画

技術委員会では、地すべりに関わる技術者への情報発信と提言を行うことを目標に、委員会を年2~3回(6月、10月、1月)開催し、以下の活動を行う予定です。

3.1 話題提供

地すべりに関わる調査技術や対策技術について、各委員会で2~3件の話題提供を行います。

3.2 地すべり技術に関するQ&A

「地すべり技術に関するQ&A」とは、日頃より地すべり業務に関わる一般会員(特に若手技術者)から地すべり技術に関する質問を受け、その回答例について技術委員会内で討議し、その結果をHPに掲載し情報発信を行う活動です。

回答内容は、単に指針・要領に回答例が記載されているものにとどまらず、ベテラン技術者の経験に基づく内容についても取り挙げます。

3.3 第3回地すべりアンケート

技術委員会では、これまでに3回の地すべりに関するアンケート調査(H6年、H19年、R1年)を実施し、最新のR1年アンケート後には、「第60回(2021年度)研究発表会」において、アンケート集計結果と考察について口頭発表を行いました。

今後については、このアンケート結果を踏まえて、課題整理や将来に向けた提言等を取りまとめる予定です。

研究調査委員会より —令和3年度の活動報告—

寒地土木研究所 倉橋稔幸

1. はじめに

研究調査委員会では、テーマ調査研究についての情報交換、作業の確認を行うほか、これに関連した話題や最近注目を集めている事例・調査・研究を行っています。また、北海道内で大きな災害が発生した際には調査への派遣を行っています。今年度の活動概要は、以下のとおりです。

2. 委員会の開催

今年度は、委員会を10月25日に委員会を開催しました。ただし、札幌市内での新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、ZOOMによるオンライン形式での開催でした。オンラインにもかかわらず、37名のご参加をいただきました。

話題提供では北海道大学の亀田純氏に「北海道胆振東部地震におけるテフラ層の地すべりのメカニズムとハロイサイトの役割」と題して、ご講演いただきました。亀田氏は粘土鉱物の結晶構造や形成過程、物理化学的な性質などを詳しく調べることにより、地震や地すべりといった地質現象を解明することを目指していらっしゃいます。ご講演では平成30年北海道胆振東部地震におけるテフラ層すべりに関するテフラ層におけるハロイサイトの結晶構造や分布を詳細に分析された結果をご紹介いただき、ハロイサイトが力学的な弱面としてすべり面に果たした役割についてご説明いただきました。たいへん活発に質疑が行われ、盛況のうちに終えることができました。

1) 日時: 令和3年10月25日 15:30~17:00

2) 開催形式: ZOOMによるオンライン形式

3) 参加者: 37名

3) 議事次第:

(1) 話題提供

「北海道胆振東部地震におけるテフラ層の地すべりのメカニズムとハロイサイトの役割」

亀田 純氏 (北海道大学)



図-1 オンライン形式による委員会開催の様子

委員会に37名が参加しました。最上段の右から2人目がご講演いただいた亀田純氏です。

3. テーマ調査研究

平成30年北海道胆振東部地震におけるテフラ層すべり及び岩盤すべりには、災害メカニズム、発生場所の偏り等に未だ課題が少なからず残されています。そこで、委員会ではテフラ層すべりと岩盤すべりについてテーマ調査研究として取り組んでいます。そこで、委員会にて「北海道胆振東部地震におけるテフラ層の地すべりのメカニズムとハロイサイトの役割」について話題提供をいただき、議論しました。次年度以降も複数回にわたりテーマを絞って議論を深めていきたいと考えています。

4. 災害調査

道内で大きな地すべり災害が発生した際には、地すべり学会北海道支部が緊急調査団を編成する際に、本委員会は調査員を派遣するなど、活動に協力しています。その他、北海道開発局と道内災害関連5学会支部との間で締結された「災害等に関わる調査の相互協力に関する協定」に基づき、5学会支部と調整のもと、調査員を派遣し現地調査を実施します。しかし、今年度に道内では大きな災害が発生しませんでしたので、災害派遣はありませんでした。

企画委員会より — 令和3年度の活動報告 —

株式会社地圏総合コンサルタント札幌支店 銭谷竜一

1. はじめに

企画委員会は、地域住民や子供たちが科学的知識に基づいて自分の判断で的確な防災・減災活動を行えるよう、土砂災害についての知識を普及することを目的として平成17年（2005年）に設立されました。

近年は一般市民や学生を対象とした、地すべりに関する知見や情報についての情報発信や出前授業などのアウトリーチ活動を企画・開催しています。

2. 令和3年度活動報告

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた活動を中止しました。中止した活動は次の通りです。

・【中止】地すべり模型の出張展示実演

日時：令和3年5月26日（水）～5月27日（木）

場所：北海道庁1Fロビー

主催：北海道 水産林務部 治山課

・【中止】地すべり防災授業

日時：令和2年6月11日（金）

対象：北海道岩見沢農業高等学校 森林科学科3年生

場所：当別町、月形町（道民の森神居尻地区ほか）

3. おわりに

企画委員会のアウトリーチ活動は土砂災害に興味を持っていただけるよう、「対面で」「実物や模型を見て・触って」参加いただけるような内容を中心としてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度と令和3年度は対面型の活動を行うことができませんでした。

一方、日々の業務や生活、学校の授業でもオンライン会議やウェブセミナー、オンライン授業の普及が進み、第60回（2021年度）研究発表会及び現地見学会で開催されたオンライン現地見学会は好評を博しました。

まだしばらくは対面での活動について制限が必要かもしれませんが、動画やWeb会議など対面型ではない内容も取り入れて、アウトリーチ活動を継承・発展できるように検討していきたいと考えています。

企画委員会では、土砂災害の啓発や防災教育などのアウトリーチ活動に関心をお持ちの会員の皆様の参加を募集しています。参加ご規模の方は事務局までご一報ください。

[その他活動報告]

シニア会（“北海道ランドスライドクラブ”）より —令和3年度の活動報告・今後の活動計画—

横田 寛

1. はじめに

「シニア会」は、ベテラン技術者の会員同士の意見交換の場所として、平成30（2018）年度の総会で新たに新設が承認された組織である。学会内の活動や対外的な活動のバックアップ、学会内の横断的な活動、技術の伝承などを行うこととしているが、活動内容は特に限定しておらず、“北海道ランドスライドクラブ”と称して、若手も含め自由な雰囲気で見聞交換ができるサロンのような場というイメージで活動を考えている。

2. 令和3年度の活動内容

「シニア会」は令和元（2019）年5月に1回目の会合を開催して以来、新型コロナウイルス感染の影響により活動ができなかった。その間、感染状況を見ながら開催準備をすることとしていたが、令和3（2021）年秋口には感染が収まってきたように見えたため、およそ2年半ぶりに開催することとし、以下の要領で実施した。ただ同年秋から冬に向けて新型変異ウイルスによる感染拡大の徴候が見え始めたことから、今回はオンラインで開催することとなった。また、本来のシニア会にふさわしく自由な雰囲気での意見交換の場としたいと考え、“オンライン飲み会”の形とした。

第2回懇談会（北海道ランドスライドクラブ）

日時：2022年1月19日（水）19：00～21：00

プログラム

1. 開会挨拶 シニア会代表 横田 寛
2. 私の経験から — 地質コンサルタントとして —
横田 寛

3. その他

4. 閉会の辞

今回はベテラン技術者の経験談を聞くという企画とし、印象に残った業務の紹介、苦心した現場など、発注者対応も含めた「地質コンサルタント」としての観点から話題が提供された。

年度末を控え多忙な時期と重なったことから参加者は7名にとどまった。また、シニア会のメンバーの中にはオンラインの環境がないためやむなく欠席、という方がおられた。今後の課題としたい。

3. 今後の活動計画

今後の新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、当面は年に1～2回のペースで開催したいと考えている。令和4（2022）年度も新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインでの実施も想定しているが、第2回懇談会ではオンラインの環境がないため参加できなかった方がおられたため、開催方法の検討が必要と考えている。

「シニア会」は単なる“年寄り”の集まりではなく、多くの若手技術者の参加を期待している。「シニア会」は具体的な活動内容については特に限定していないが、発足の趣旨から、今後はベテラン技術者の経験談を語っていただく機会を多く設け、若手技術者への伝承や、若手とベテランが自由な雰囲気で見聞交換ができる場としたいと考えている。そのため「若手の会」とも連携して準備をしていきたい。

また、すでに現役を退いた本来のシニア層である（公社）日本地すべり学会北海道支部・北海道地すべり学会の会員にも参加していただきたいと考えており、声掛けなどを積極的に行いたいと考えている。

学会の動向と記録

北海道立総合研究機構 輿水 健一

1. 学会の動向と記録

令和3年度 総会

承認日：令和3年5月14日

開催方法：書面決議

令和3年度 第1回 幹事会

日時：令和3年7月30日 13:30~14:20

開催方法：オンライン

内容：事業計画と実施状況、予算執行状況、会員状況
(引き続き、支部運営委員会も開催しました)

令和3年度 第2回 幹事会

日時：令和4年2月8日 14:00~15:30

開催方法：オンライン

内容：事業計画と実施状況、予算執行状況、会員状況
(引き続き、支部運営委員会も開催しました)

令和3年度 特別講演会

日時：令和4年2月15日 14:00~17:00

開催方法：オンライン

令和3年度 事業計画の実施状況

今年度はオンラインによる全国大会の準備を行った。事業の実施状況を右表に取りまとめました。詳細は各部・各部・各委員会報告を参照下さい。

2. 会員状況

令和4年1月時点の会員 240名

【新規入会：1名、退会：18名】

- ・官公庁・大学関係者：19名（9名）
- ・民間関係者：221名（57名）

括弧内は（公社）日本地すべり学会の会員でもある方

- ・賛助会員：民間35団体・社

表 令和3年度事業計画

月	日付	令和3年度 事業計画・実施状況と予定	
4	4/16	拡大事務局会議	事務局 各部会委員長
	5/14	総会（書面決議）	事業部
6	6/16	全国大会第3回幹事会	全体
7	7/30	第1回幹事会	全体
		全国大会第4回幹事会	
9	9/7	全国大会第5回幹事会	全体
		全国大会第2回実行委員会	
		全国大会	
10	10/20	全国大会報告会	全体
	10/25	第1回 研究委員会	研究委員会
1	1/19	5学会連絡会	(公社)日本地すべり学会
2	2/8	第2回幹事会	全体
	2/15	特別講演会	事業部
通年		広報活動(HP、メール配信)	広報部

【所感】

・今年度も昨年度に続き、コロナウイルスの影響により、対面での活動ができず、オンラインによる活動が主でした。幹事会についてもオンラインにより実施しました。
・コロナウイルスの影響により、会員数の減少が続いています。対面での活動ができず、十分な交流ができていないのが一つの要因であると考えています。コロナウイルスが収まる傾向がなかなか見られないため、オンラインによる魅力的なイベントを企画する必要があると考えています。また、例年は4月の研究発表会時に、各社の新入社員へ入会の呼びかけをしていますが、そのような場も設けられていません。こちらについても何らかの検討をしていきたいと考えています。

3. おわりに

9月に行われた日本地すべり学会の全国大会では、全国各地の研究者がオンライン上で一堂に会しました。2月の特別講演会では、京大防災研の王教授、土井助教からオンライン上にて特別講演をいただきました。オンラインによる研究発表会や講演会は物理的距離が遠くても、最新の研究動向を身近に聞けるというメリットがあります。その一方で、懇親会のような交流を図る場合は、オンライン上で盛り上げるためには工夫が必要です。今後、オンラインを活用した魅力的な交流を模索していきたいと思っています。

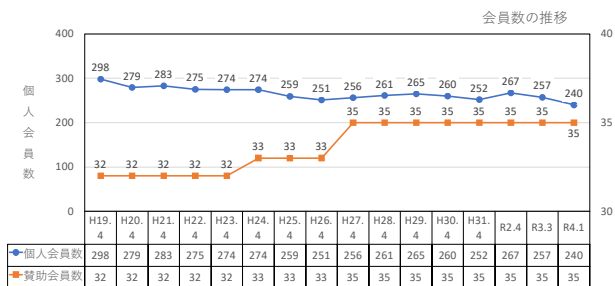


図 会員数の推移

[お知らせ]

(社) 日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会 令和4年度総会のご案内 (事業部)

令和4年度総会は、令和4年4月28日(木曜日)、北大学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)で開催する予定です。詳細が決まりしだい、メーリングリスト等でご連絡を差し上げます。

[賛助会員名簿]

北海道地すべり学会賛助会員名簿

所 属	郵便番号	勤 務 先 住 所	電 話 番 号
(株)イーエス総合研究所	007-0895	札幌市東区中沼西5条1丁目8番1号	011 - 791 - 1651
岩 崎(株)	060-0034	札幌市中央区北4条東2丁目1番地	011 - 252 - 2000
上山試錐工業(株)	060-0032	札幌市中央区北2条東13丁目1-7	011 - 241 - 6516
応用地質(株) 北海道事務所	060-0031	札幌市中央区北1条東1丁目2番5号	011 - 200 - 9522
(株)開発調査研究所	062-0054	札幌市豊平区月寒東4条10丁目7-1	011 - 852 - 5053
川崎地質(株) 北海道支店	060-0031	札幌市中央区北1条東2丁目5-2 札幌泉第2ビル	011 - 232 - 1344
基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社	003-0807	札幌市白石区菊水7条2丁目7-1 SEビル	011 - 822 - 4171
(株)構研エンジニアリング	065-8510	札幌市東区北18条東17丁目1-1	011 - 780 - 2811
国土防災技術北海道(株)	060-0033	札幌市中央区北3条東3丁目1-30 KNビル	011 - 232 - 3521
サンコーコンサルタント(株) 札幌支店	060-0042	札幌市中央区大道通り西12-4-69 札幌大通ビル	011 - 271 - 2235
(株)シー・イー・サービス	062-0032	札幌市豊平区西岡2条8丁目5-27	011 - 855 - 4440
(株)シビテック	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5丁目8-1	011 - 816 - 3001
(株)ジプロー	004-0021	札幌市厚別区青葉町13丁目15-11	011 - 894 - 8331
(株)シン技術コンサル	003-0021	札幌市白石区栄通2丁目8-30	011 - 859 - 2600
(株)測機社	064-0914	札幌市中央区南14条西11丁目3-3	011 - 561 - 5203
ダイシン設計(株)	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目1-23 道通ビル	011 - 222 - 2325
大地コンサルタント(株)	070-0054	旭川市4条西2丁目1番12号	0166 - 22 - 7341
(株)ダイヤコンサルタント 北海道支社	001-0010	札幌市北区北10条西2丁目13番地2	011 - 729 - 2701
(株)地圏総合コンサルタント 札幌支店	064-0823	札幌市中央区北3条西26丁目1-20	011 - 615 - 1520
中央開発(株) 札幌支店	060-0806	札幌市北区北6条西9丁目2番地	011 - 842 - 4155
東亜グラウト工業(株) 北海道支店	007-0868	札幌市東区伏古8条2丁目5番19号	011 - 783 - 7832
(株)ドーコン	062-0933	札幌市豊平区平岸3条5丁目4番22号	011 - 801 - 1570
トキワ地研(株)	065-0028	札幌市東区北28条東2丁目779	011 - 751 - 4841
日特建設(株) 札幌支店	004-0041	札幌市厚別区大谷地東4丁目2-20 第2西村ビル	011 - 801 - 3611
日本基礎技術(株) 札幌支店	060-0033	札幌市中央区北3条東8丁目8番地4	011 - 252 - 3670
日本工営(株) 札幌支店	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル	011 - 205 - 5531
パブリックコンサルタント(株)	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目 第2道通ビル	011 - 222 - 3338
北海道三祐(株)	002-0856	札幌市北区屯田6条8丁目9-12	011 - 773 - 5121
北海道土質コンサルタント(株)	062-0931	札幌市豊平区平岸1条2丁目5-16	011 - 841 - 1466
(株)北海道土木設計	060-0002	札幌市中央区北2条西1丁目1番地 マルト札幌ビル	011 - 231 - 6321
防災地質工業(株)	001-0907	札幌市北区新琴似7条15丁目6-22	011 - 763 - 2939
明治コンサルタント(株)	064-0807	札幌市中央区南7条西1丁目21-1 第3弘安ビル	011 - 562 - 3066
(株)メジャメント	064-0912	札幌市中央区南12条西12丁目1-13	011 - 551 - 6623
ライト工業(株) 北海道統括支店	060-0006	札幌市中央区北6条西18丁目1-7	011 - 631 - 6486
和光技研(株)	063-8507	札幌市西区琴似3条7丁目5番22号	011 - 611 - 0206

[学会役員幹事運営委員名簿]

令和3年度 北海道地すべり学会 幹事 名簿

役職	氏名	所 属
会 長	石丸 聡	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
副会長	伊東 佳彦	北電総合設計(株)
副会長(技術アドバイザー)	磯貝 晃一	(株)開発調査研究所
監査委員(技術アドバイザー)	横田 寛	
監査委員(技術アドバイザー)	戸田 英明	(株)ドーコン
【幹事会】		
幹事長	渡辺 一樹	(株)ダイヤコンサルタント 北海道支社
副幹事長	渡邊 司	ホクボウコンサルタント
幹事	石川 達也	(国)北海道大学大学院 工学研究院
幹事(技術アドバイザー)	田近 淳	(株)ドーコン
幹事(事務局長)	輿水 健一	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
幹事(事務局次長)	溝上 雅宏	明治コンサルタント(株)
幹事(事務局次長)	足立 辰也	国土防災技術北海道(株)
幹事(事務局次長)	岩間 倫秀	日本工営(株) 札幌支店
幹事(事務局次長)	清水 順二	(株)ジオプラ
幹事(事業部長)	佐々木 隆	上山試錐工業(株)
幹事(事業部副部長)	佐々木 悟	サンコーコンサルタント(株) 札幌支店
幹事(事業部副部長)	日下田 亮	川崎地質(株) 北海道支店
幹事(広報部長)	青木 淳	(株)構研エンジニアリング
幹事(広報部副部長)	紙本 和尚	(株)シン技術コンサル
幹事(広報部副部長)	向久保 晶	基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社
幹事(巡検部長)	山田 結城	(株)ドーコン
幹事(巡検部副部長)	石田 博英	防災地質工業(株)
幹事(巡検部副部長)	伊藤 和伯	(株)開発調査研究所
幹事(技術普及部長)	本間 宏樹	応用地質(株) 北海道事務所
幹事(技術普及部副部長)	永井 啓資	大地コンサルタント(株)
幹事(技術普及部副部長)	中鶴 真也	北海道土木設計(株)
幹事(研究調査委員会委員長)	倉橋 稔幸	(国研)土木研究所 寒地土木研究所
幹事(研究調査委員会副委員長)	笠井 美青	(国)北海道大学大学院 農学研究院
幹事(研究調査委員会副委員長)	渡邊 達也	(国)北見工業大学 地球環境工学科
幹事(技術委員会委員長)	柴田 純	(株)シビテック
幹事(技術委員会副委員長)	渡辺 一樹	(株)ダイヤコンサルタント 北海道支社
幹事(技術委員会副委員長)	佐々木 裕一	北海道三祐(株)
幹事(企画委員会委員長)	銭谷 竜一	(株)地圏総合コンサルタント 札幌支店
幹事(企画委員会副委員長)	宿田 浩司	和光技研(株)
幹事(企画委員会副委員長)	丸山 翔平	(株)シビテック

オブザーバー	堀田 拓也	北海道開発局 建設部 道路建設課
オブザーバー	久保 徳彦	北海道開発局 建設部 河川工事課
オブザーバー	藤元 栄一	北海道開発局 農業水産部 農業設計課
オブザーバー	西川 勲	北海道森林管理局 計画保全部 治山課
オブザーバー	青木 剛	北海道建設部 土木局 河川砂防課
オブザーバー	小林 義宗	北海道農政部 農村振興局 農村整備課
オブザーバー	渡邊 哲也	北海道水産林務部 林務局 治山課

令和3年度 (社)日本地すべり学会北海道支部 運営委員名簿

役職	氏名	所 属
支部長 (本部担当)	石丸 聡	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
副支部長	石川 達也	(国)北海道大学大学院 工学研究院
副支部長	笠井 美青	(国)北海道大学大学院 農学研究院
監事	横田 寛	
監事	戸田 英明	(株)ドーコン
【運営委員会】		
運営委員長	渡邊 司	ホクボウコンサルタント
運営副委員長	渡辺 一樹	(株)ダイヤコンサルタント 北海道支社
運営委員	田近 淳	(株)ドーコン
運営委員	伊東 佳彦	北電総合設計(株)
運営委員	磯貝 晃一	(株)開発調査研究所
運営委員	佐々木 隆	上山試錐工業(株)
運営委員	佐々木 悟	サンコーコンサルタント(株) 札幌支店
運営委員	日下田 亮	川崎地質(株) 北海道支店
運営委員	青木 淳	(株)構研エンジニアリング
運営委員	紙本 和尚	(株)シン技術コンサル
運営委員	向久保 晶	基礎地盤コンサルタント(株) 北海道支社
運営委員	山田 結城	(株)ドーコン
運営委員	石田 博英	防災地質工業(株)
運営委員	伊藤 和伯	(株)開発調査研究所
運営委員	本間 宏樹	応用地質(株) 北海道事務所
運営委員	永井 啓資	大地コンサルタント(株)
運営委員	中鶴 真也	北海道土木設計(株)
運営委員	倉橋 稔幸	(国研)土木研究所 寒地土木研究所
運営委員	渡邊 達也	(国)北見工業大学 地球環境工学科
運営委員	柴田 純	(株)シビテック
運営委員	佐々木 裕一	北海道三祐(株)
運営委員	銭谷 竜一	(株)地圏総合コンサルタント 札幌支店
運営委員	宿田 浩司	和光技研(株)
運営委員	丸山 翔平	(株)シビテック
運営委員 (事務局長)	輿水 健一	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所
運営委員 (事務局次長)	溝上 雅宏	明治コンサルタント(株)
運営委員 (事務局次長)	足立 辰也	国土防災技術北海道(株)
運営委員 (事務局次長)	岩間 倫秀	日本工営(株) 札幌支店
運営委員 (事務局次長)	清水 順二	(株)ジオプラ

オブザーバー	宮崎 和英	北海道開発局 建設部 道路建設課
オブザーバー	久保 徳彦	北海道開発局 建設部 河川工事課
オブザーバー	藤元 栄一	北海道開発局 農業水産部 農業設計課
オブザーバー	西川 勲	北海道森林管理局 計画保全部 治山課
オブザーバー	青木 剛	北海道 建設部 土木局 河川砂防課
オブザーバー	小林 義宗	北海道農政部 農村振興局 農村整備課
オブザーバー	渡邊 哲也	北海道水産林務部 林務局 治山課

[編集後記]

世界的にも新型コロナ感染拡大がまだ落ち着かず、その影響は毎日のようにメディアなどで目にするところではありますが、2019年12月に中国の武漢市で1例目の感染者が報告されてから、早2年半が経過しております。1日も早く新型コロナウィルスが終息し、元の生活に戻ることを切に願っております。

当学会においても、新型コロナの影響により昨年に引き続き対面方式でのやりとりは極力回避しながら進めており、各部、各委員会の活動は制限されています。令和3年度総会もメーリングリストによる電子メールおよびホームページ上での公開により、また、特別講演及び研究発表会はオンラインでの特別講演のみの開催となりました。今後も感染状況を見極めながらの活動を強いられることとなりますが、その一方で自然災害へ関心は近年増々高まっています。安全・安心な地域社会の実現に向け、学会としても新たな普及啓発の手段等を模索しながら、引き続き尽力していきたいと考えています。

Hols Newsでは、(公社)日本地すべり学会第60回研究発表会及び現地見学会(北海道大会)について、運営にあられた幹事長および各幹事(部会長)より開催報告を執筆いただいております。また、日本地すべり学会誌、第58巻第6号にも北海道大会の活動報告が掲載されておりますので、そちらも併せて一読いただければと思います。

最後に本号の発刊にあたり、原稿執筆に協力していただいた方々に深く感謝申し上げます。

本号に対する、ご意見、ご感想など御座いましたら、下記問い合わせ先までよろしく願い致します。

原稿募集

皆様からの原稿を、常時募集致します。内容は、広く地すべりに関連する興味深い話題であればご自由ですので、下記原稿送付先までお送りください。

問い合わせ、原稿送付先

向久保 晶 基礎地盤コンサルタンツ(株) 地質技術部
〒003-0807 札幌市白石区菊水7条2-7-1
Tel:011-822-4171 Fax:011-822-4727
E-mail: mukaikubo.akira@kiso.co.jp

青木 淳 (株)構研エンジニアリング 地質部
〒065-8510 札幌市東区北18条東17丁目
Tel:011-780-2811 Fax:011-780-2832
E-mail: a.aoki@koken-e.co.jp

紙本 和尚 (株)シン技術コンサル 技術第2部(地質担当)
〒003-0021 札幌市白石区栄通2丁目8-30
Tel:011-859-2606 Fax:011-859-2616
E-mail: kamimoto@shin-eng.co.jp

地すべり北海道40 ～北海道地すべり学会ニュース～

発行日 2022年3月31日
発行者 北海道地すべり学会
発行責任者 北海道地すべり学会会長 石丸 聡
広報部 青木 淳、紙本 和尚、向久保 晶